

# 学校だより



川西市立多田小学校

10 月 令和元年 10 月 1 日

学校HP：<http://www.kawanishi-hyg.ed.jp/tadapo/>

日が少しずつ短くなり、朝夕の涼しさが秋の深まりを感じさせてくれるようになりました。2学期が始まって1ヶ月が過ぎ、子どもたちもそれぞれの思いを胸に毎日の学校生活を頑張っています。体力・気力・学力とも友達と一緒に、仲良く伸びていってくださることを願っています。

## ◎自然学校へ行ってきました！

5年生は9月25日(水)～29日(日)、4泊5日の日程で自然学校に行ってきました。『丹波少年自然の家』に宿泊して、「スタンプラリー」や「サイクリング」「藍染め」「アスレチック」「野外炊事」「キャンプファイヤー」などを体験しました。家を5日間も離れるのは初めてのことだったでしょうが、子どもたちは、日ごとにたくましくなっていたように思います。心配されたお天気でしたが、全体的に天候に恵まれ、プログラムもスムーズに行うことができました。子どもたちは、自然学校の中で、様々なことを学び、体験し、成長しました。普段触れることのない大自然の中で集団生活を体験しただけでなく、家では、おうちの方々に当たり前のようにやってもらっていたことを自分でしなければならぬ場面もたくさんありました。自然学校に行くことができたのは家の方や先生のおかげでもあります。また、リーダーさんや丹波少年自然の家のスタッフのみなさんはみんなのために一生懸命働いてくださいました。感謝の気持ちを持つことも大切ですね。今回での自然学校での体験が、子どもたちの学校生活でも、そして家庭生活でも一つの転機となることを願っています。



## ◎失敗なしで、成功する人間なんていない

北海道旭川市の旭山動物園は、日本で一番北にある動物園です。一年の半分近くを雪に閉ざされていますが、とても人気があり、一年間に165万人もの人が訪れます。ところが、今から20年ぐらい前は、お客さんがどんどん減っていき、閉園の噂さえさやかれていたのです。そして、閉園目前の動物園の園長に就任したのが、小菅正夫さんでした。

旭山動物園にいる150種類ほどの動物は、どこの動物園にもいる動物です。パンダのような珍しい動物はいません。でも、小菅園長は動物たちの生き生きとした姿が大好きでした。ですから、お客さんの数が減るだけでなく、「この動物園の動物を見てもつまらない。動物たちは寝てばかりいる。」と、お客さんがつぶやいているのを聞くと、悔しくて仕方がありませんでした。そこで、小菅園長は、動物園の復活のために飼育員さんたちと何度も話し合い、動物たちの生き生きとした姿にお客さんが感動する理想の動物園をつくらう、と決心しました。ここから、旭山動物園の挑戦が始まりました。

最初の取り組みは、飼育員さんが、担当する動物の解説をする「ワンポイントガイド」や、えさやり風景を見せる「もぐもぐタイム」でした。もちろん、すぐにうまくいったわけではありません。失敗もたくさんありました。でも、「失敗を恐れずに挑戦しよう。挑戦しなければ、未来は切り拓けない」と、小菅園長は、動物園の人たちに語り続けました。しばらくすると、見知らぬ人にガイドをしているお客さんや、はじめて来た友だちを案内しながら歩いているお客さんの姿を見かけるようになりました。何よりも、動物たちの生き生きとした姿に喜び笑顔のお客さんが増えたのです。自信を得た小菅園長は、飼育員さんとアイデアを出し合い、動物の素晴らしい姿を見ることが出来る施設をいくつも作りました。空飛ぶようなスピードでペンギンが泳ぎ回るペンギン館、透明な円柱のトンネルをアザラシが気持ちよく泳ぐアザラシ館。他にもたくさんありますが、そのどれもが、失敗を繰り返しながら作り上げたものでした。

理想の動物園を作ろうという取り組みは、今も続いています。そこにたどり着くには、長い年月がかかるでしょうし、終わりのない挑戦かもしれません。でも、小菅園長は、こう言っています。

「努力は、報われないかもしれませんが、努力をしなければ絶対に何も生まれません。未来のことなんて、やってみなければわからないことばかり。だから、失敗しながら進んでいくしかないんです。失敗なしで、成功する人間なんていないのですから。」

失敗は、成功への入り口です。迷った時こそ、やってみましょう。行動を起こさない限り、未来を切り拓き、希望を実現することはできません。うまくいかなかった希望は、考え直したり、訂正を重ねたりすることで、新たな希望へと生まれ変わることができるのです。



※日々の学校生活についても、ホームページで紹介しています。ご覧ください。